

- 1 本資料は、千葉県内で発生した安全運転管理者選任事業所、又は運転代行業（以下「安管事業所」といいます。）の従業員が業務中又は通勤中に関係した人身事故を抽出・分析したものです。
- 2 本資料には、他県の安管事業所の従業員が起こした事故の数値が含まれています。本県の安管事業所の従業員が他県で起こした事故の数値は含みません。
- 3 本資料には、物件事故（人の死傷を伴わない事故）の数値は含みません。

安全運転管理者等選任事業所の交通事故発生状況（物件事故除く）

平成 30 年 3 月中

1 県内の発生状況（運転目的が業務中・出勤中・退社中のもの）

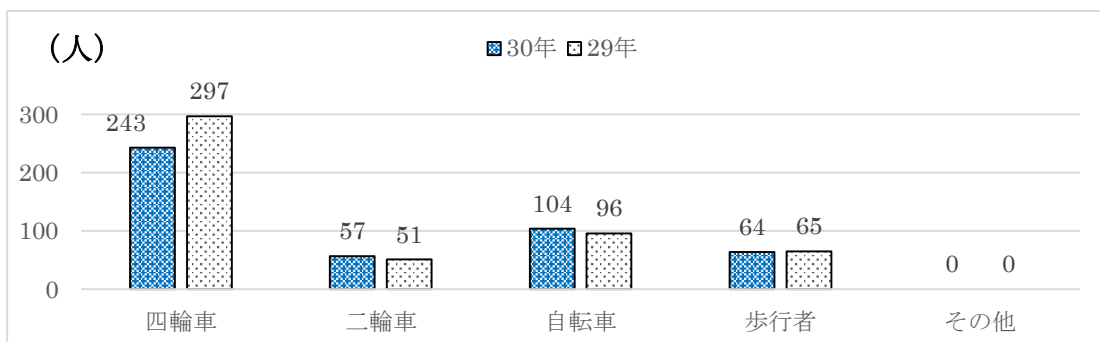
		3月中				累 計			
		30年	29年	増減数	増減率	30年	29年	増減数	増減率
発 生 件 数		152	153	-1	-0.7	404	413	-9	-2.2
昼	日の出1時間後	8	7	1	14.3	44	31	13	41.9
	そ の 他 昼	92	108	-16	-14.8	217	246	-29	-11.8
	日の入1時間前	10	3	7	233.3	18	15	3	20.0
	昼 計	110	118	-8	-6.8	279	292	-13	-4.5
夜	日の入1時間後	16	10	6	60.0	46	35	11	31.4
	そ の 他 夜	22	24	-2	-8.3	67	77	-10	-13.0
	日の出1時間前	4	1	3	300.0	12	9	3	33.3
	夜 計	42	35	7	20.0	125	121	4	3.3
死 者 数		5	1	4	400.0	6	1	5	500.0
負 傷 者 数		172	197	-25	-12.7	462	508	-46	-9.1
重傷者数		14	16	-2	-12.5	40	45	-5	-11.1
軽傷者数		158	181	-23	-12.7	422	463	-41	-8.9

○ 概略

平成 30 年 3 月中に安管事業所従業員に係わる死亡事故が 5 件と多発し、累計死者数は 6 人となり、すでに平成 29 年の年間死者数と同数になっています。6 人の死者の内、4 人が高齢者であり、その内 3 人が歩行中でした。県内全体の傾向と同様に高齢歩行者の死亡事故が多発しています。死亡事故は危機的状況と言えますので、引き続き安全運転管理の徹底をお願いします。

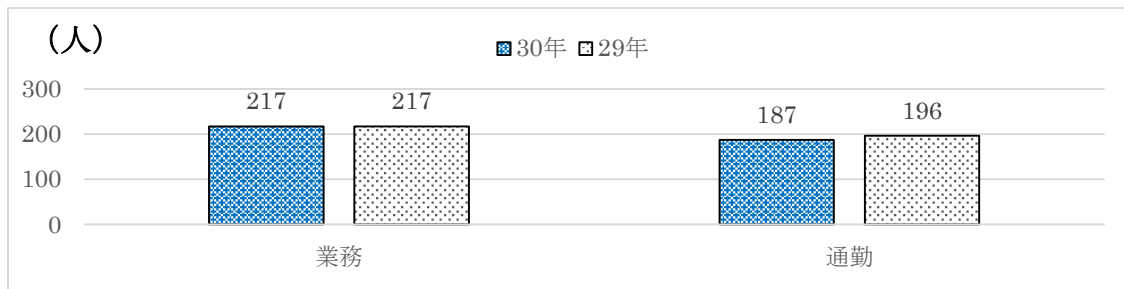
- 平成 30 年 3 月中の発生件数は 152 件（前年比-1 件）、負傷者数も 172 人（同-25 人）とやや減少しています。

2 死傷者の状態別（平成 30 年 3 月中）



- 死傷者の状態別では、四輪車乗車中が 243 人（51.9%、前年比-54 人）、歩行中の死傷者は 64 人（13.7%、同-1 人）と減少したのに対し、自転車乗車中は 104 人（22.2%、同+8 人）二輪車乗車中は 57 人（12.2%、同+6 人）と増加しました。

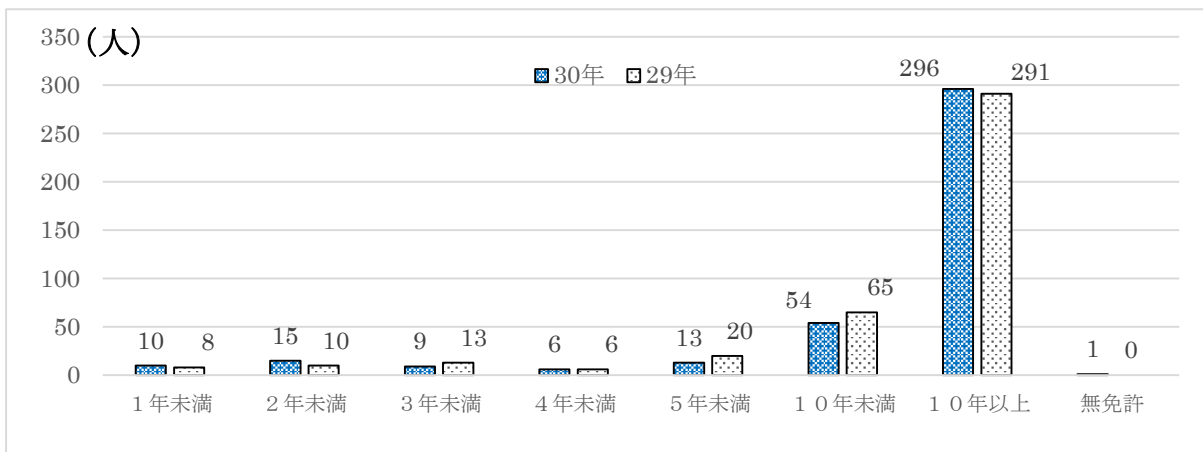
3 第1当事者の運行目的（平成30年3月中）



○ 第1当事者の運行目的は、業務中が217人（53.7%、前年比±0人）、通勤途中が187人（46.3%、同-9人）でした。通勤時間は業務時間より短いことと、電車通勤者も相当数いることを考えれば、通勤中の事故比率は高いと言えます。

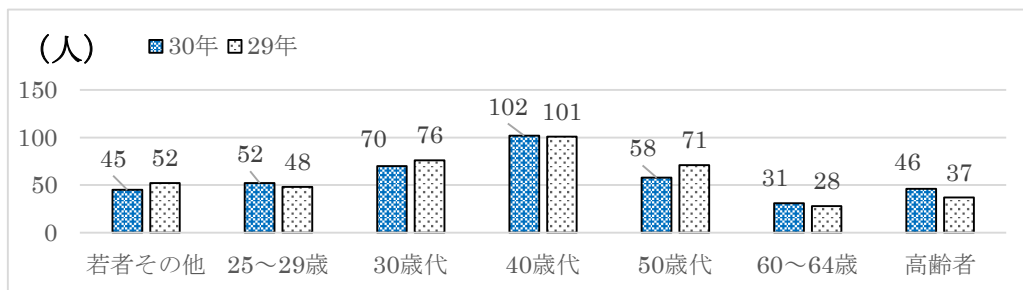
業務で車両を運転する従業員だけではなく、車両通勤者に対しても安全教育を実施するとともに、通勤経路の見直し（生活道路を避け、幹線道路主体の経路に改めるなど）や、危険個所をチェックするなどの対策を推進して下さい。

4 第1当事者の免許経験年数（平成30年3月中）



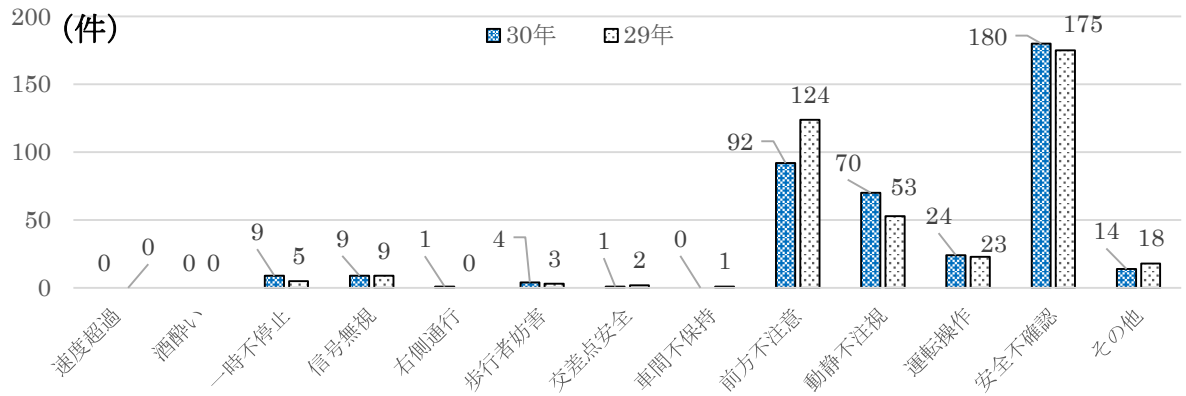
○ 第1当事者の免許取得経過年数別では、経過年数10年以上の者が296人（73.3%、前年比+5人）と最も多く、次いで5年以上10年未満の者が54人（13.4%、同-11人）でした。1年未満から5年未満の者の合計は53人（13.1%、同-4人）でした。運転経験の少ない従業員に対する安全教育だけではなく、ベテラン従業員に対してもきめ細かい安全教育が必要です。

5 第1当事者の年齢層（平成30年3月中）



○ 第1当事者の年齢層は、40歳代が最も多く102人（25.3%、前年比+1人）、次いで30歳代が70人（17.3%、同-6人）でしたが、60歳以上が77人（19.1%、前年比+12人）と増加しています。

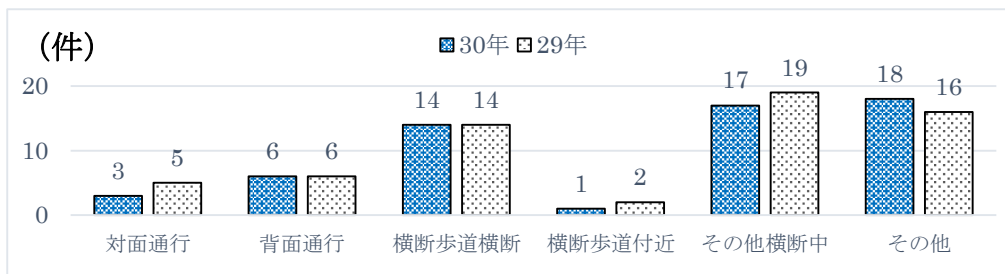
6 第1当事者の違反・原因別（平成30年3月中）



○ 事故原因は、前方不注意、動静不注意、運転操作不適、安全不確認などの安全運転義務違反が多く、合計366件で事故原因の90.6%を占めています。

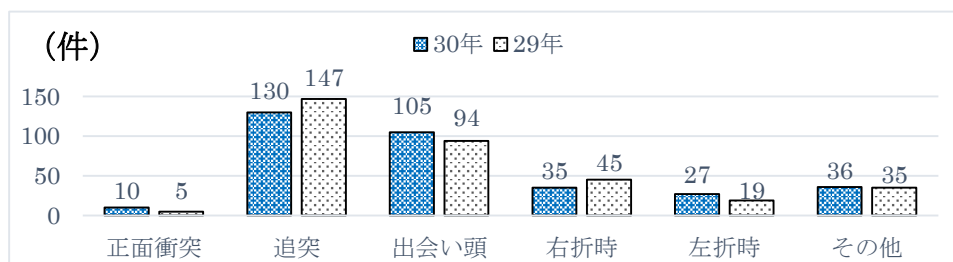
7 事故類型（平成30年3月中）

(1) 人対車両



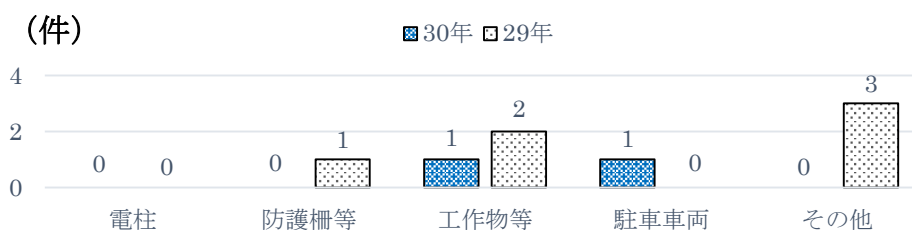
○ 人対車両の事故は59件（前年比-3件）とやや減少しました。横断中（横断歩道及びその付近、その他横断中）の事故は計32件（54.2%、同-3件）でした。人対車両の事故は、重傷事故に発展する可能性が高いので特に注意して下さい。

(2) 車両相互



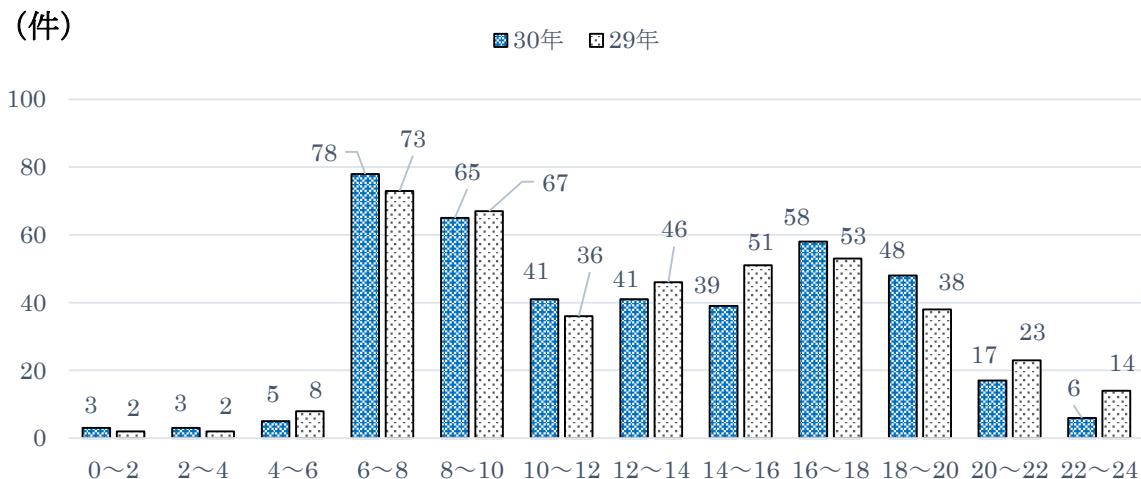
○ 車両相互の事故類型で最も多いのは追突の130件（32.2%、前年比-17件）ですが、正面衝突10件（2.5%、同+5件）と出会い頭105件（26.0%、同+11件）が増加しています。正面衝突と出会い頭事故は追突事故に比べ重大事故に発展する可能性が高いので注意して下さい。

(3) 車両単独



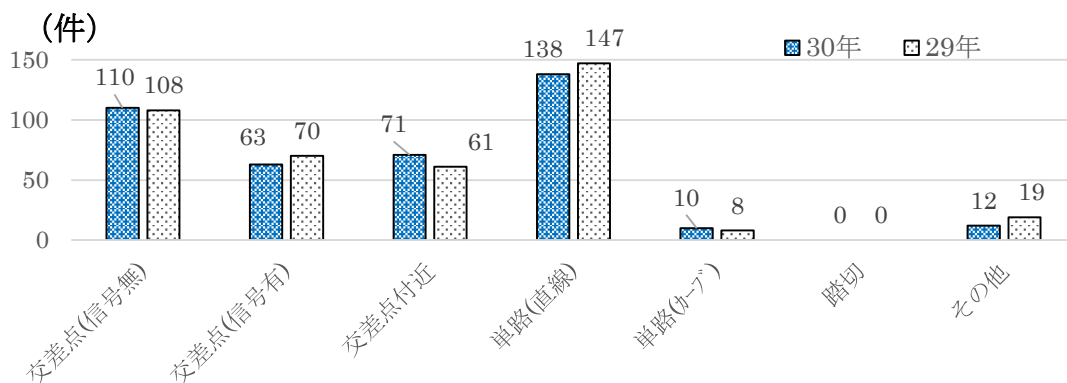
○ 3月中の車両単独事故は2件と（前年比-4）減少しています。

8 時間帯別発生状況（平成 30 年 3 月中）



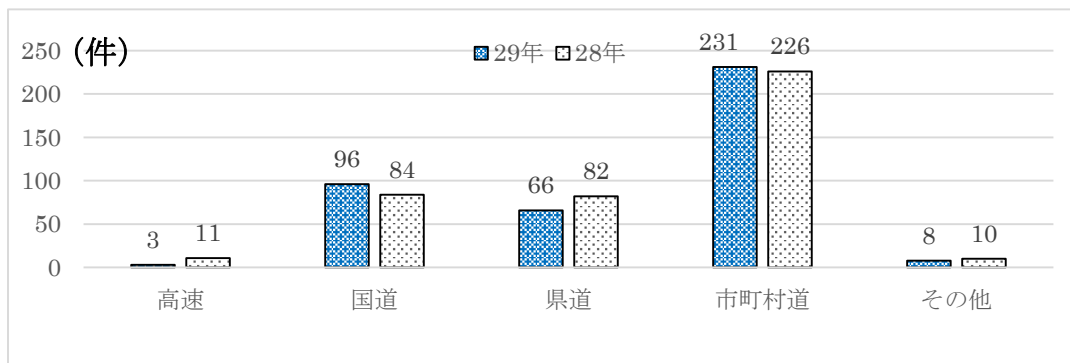
- 時間帯別で最も多く発生したのは、6時から8時までの78件（19.3%、前年比+5件）でした。次いで多く発生したのは8時から10時までの65件（16.1%同-2件）でした。6時から10時までの時間帯に事故の3分の1以上が発生していますので、時間的な余裕を持った出勤や出発に心掛けて下さい。

9 道路形状別発生状況（平成 30 年 3 月中）



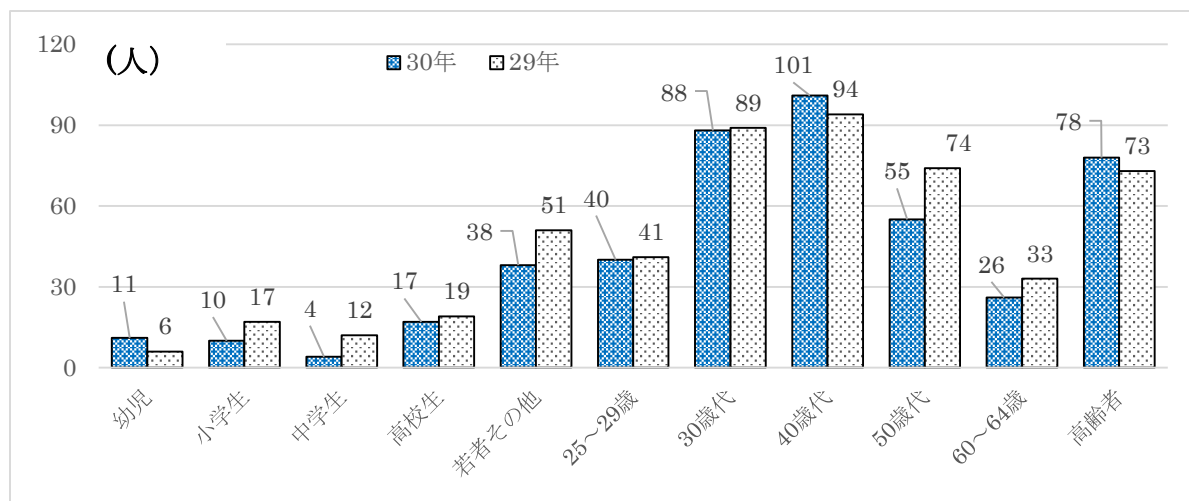
- 道路形状別では、交差点及び交差点付近の事故が合わせて244件（60.4%、前年比+5件）と増加したのに対し、単路（直線）の事故は138件（34.2%、同-9件）と減少しました。

10 道路別発生状況（平成 30 年 3 月中）



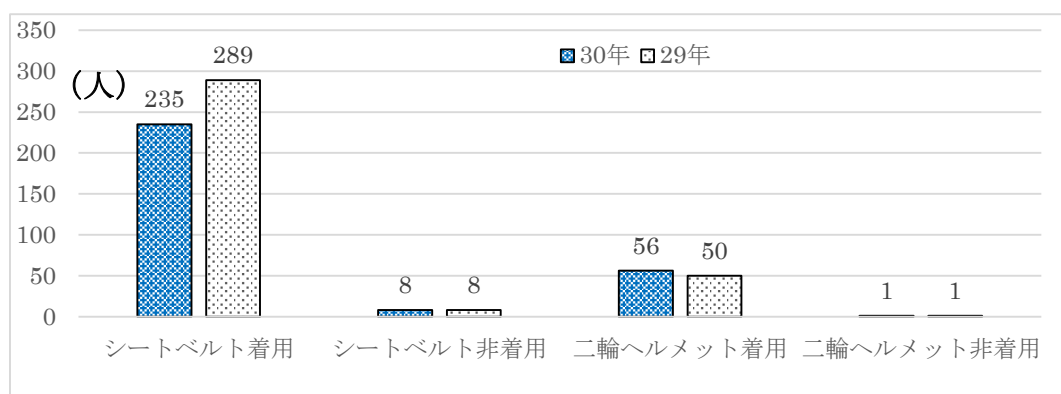
- 道路別では、市町村道が最も多く231件（57.2%、前年比+5件）、次いで国道が96件（23.8%、同+12件）、県道が66件（16.3%、同-16件）でした。

11 死傷者の年齢層別（平成 30 年 3 月中）



- 死傷者の年齢層別で最も多かったのは、40歳代の101人（21.6%、前年比+7人）、次いで30歳代の88人（18.8%、同-1人）でした。高齢者は78人（16.7%、同+5人）と増加しています。対高齢者の事故は、重大事故になる可能性が高いので、思いやりのある運転に心掛けて下さい。

12 シートベルト・ヘルメット着用状況（平成 30 年 3 月中）



- 四輪車の死傷者の内、シートベルトを着用していたのは235人（96.7%）、非着用は8人（3.3%）でした。二輪車の死傷者の内、ヘルメットを着用していたのは、56人（98.3%）、非着用は1人（1.8%）でした。